

令和7年度 岡山県生涯学習センター運営協議会 第1回会議（議事概要）

日時：令和7年7月11日（金）10:00～11:45

場所：岡山県生涯学習センター講義棟 会議室

1 開会

- ・栗原所長挨拶
- ・新任委員紹介
- ・施設内視察

2 議事

（1）「令和7年度の事業の取組状況」について
担当から説明

会 長）ただいまの説明について、ご質問・ご意見はあるか。

委 員）先輩や色々な方に表紙に載っているとされる。冊子も見やすくなった。

委 員）学校現場でも若手の教員が増えて、人材育成の難しさを感じる。その中で、「地域学校協働活動」や「家庭教育」の研修は、学校に勤めている方の課題に沿ったテーマで、すごく良い。学校の課題として、保護者同士の繋がりが希薄であったり子育てに悩みを抱えられてる保護者が多い。そんな現状を踏まえてここで学んだ人がどれぐらい活躍されているのか、追跡調査等で把握されてるのか。

事 務 局）「家庭教育支援者スキルアップ講座」については、こちらが対象としているのが親育ち応援学習プログラムを市町村で実施をしていただくファシリテーター。この講座を修了された方はファシリテーターとしてご活躍いただき、年度末に県の生涯学習課の方で各市町村から何回実施したとか、何人来たとかそういったもの数は集約している。数の面での集約になっているが、様々なところで大人数のものから少人数のものまでニーズに応じた形で実施してくださっている。また、小学校の入学前に保護者の方を集めてお話をされる機会にも実施をされている。

委 員）「センターだより」は大変わかりやすく、色々な事業があるのだということに改めて感じた。これはどういうところで入手できるのか？

事 務 局）全県下の小・中学校には1部ずつ、大学や専修学校にも1部から5部ぐらいの数を、市町村の図書館や公民館には10部ないし20部ずつぐらい送付している。県立図書館にも送付している。

委 員）私自身は日本で暮らす外国人の研究をしている。また、今年度から県の外国人住民を支援するための条例に従って、新しく審議会が立ち上がった。そのの

メンバーとしてもぜひお願いしたいことがある。できれば外国語バージョンを作っていただき、国際交流センターなどの色々な部署とも連携し、生涯学習センターをぜひ外国人住民がもっと活用できるように尽力いただきたい。

会 長) 基本的にはこういった言語がよいのか？

委 員) 今一番多いのは中国・ベトナム。岡山大学にたくさん留学生がいるので、翻訳なども手伝っていただけるのではないかな。

委 員) 「高校生×地域」の取組内容はどのようなものか。

事 務 局) 今年度で3年目を迎える。初年度は笠岡商業高校と笠岡市中央公民館、昨年度は備前緑陽高校と備前市の中央公民館を繋いでいる。今年度の浅口市は、浅口市鴨方の町家公園の知名度が低く、来訪者が少ないことが市の課題。今後の展望として、そこを盛り上げていこうと思っている鴨方高校の生徒を募集して、第1回目を浅口市の職員、人作り推進課の職員と高校生とが対話しながら今後の活動について考えていただく。

一昨年の笠岡の場合は子ども会の行事がない事が悩みだった。しかし、笠岡商業の生徒が自分たちが小学生だったときには、とても楽しい準備行事が地域にあったのに、それは寂しいということで、プチ運動会の様な活動をした。

昨年度は、備前市には備前焼や牡蠣以外にも資源があるのに知られていない、また、お洒落なカフェが無いということで、地域おこし協力隊の力を借りながら、採れたみかんをシロップにし、店でそれをジュースにして簡単に飲めるようにして、「雛巡り」というイベントで出店した。

委 員) 予算の関係もあると思うが、毎年度1事業なのか。

事 務 局) 予算の関係もあるが、半年～1年かけてセンター職員が伴走支援しているので、人材的に年1つが精一杯。

委 員) このような事業は学校現場でもニーズがあると思うので、学校側との連携支援の取り組みもあっていいのではないかなと思った。

会 長) 学校で行われている探究学習とは完全に別ものでやっているのか。

事 務 局) そうである。社会教育で本当に将来的にこの街を愛せる人がどれだけできるか、このまちのために力を尽くせる人間がどれだけできるかという、アウトカムの部分に非常に重きを置いてやっている事業。高校生たちが、社会教育のゆるやかな繋がりの中で、主体的に自分らしさをいかに発揮しながら活躍できるかというあたりを目指している。

(2) 令和8年度新規事業「未来に繋がる共生社会作りの研修会(仮)」について 担当者から説明

委 員) 事例発表・体験とを書いているが、体験はどのようなことを想定しているの

か。

事務局) 事例発表だけでは、うちの市町村では難しいと思われる参加者が多いと思う。これだったらできるなと思ってもらうため、実際に体験する。

委員) テーマの幅が広い1つずつ取り上げててもかなりの幅がある。また、参加者はどのような参加の仕方になるのか。

事務局) 例えば9月に夜、11月に昼と考えているが、現在悩んでいるところである。

委員) やるとしたらある程度回数が必要。また、同じ方が続けて参加される方が深まるのかなという部分もあるが、広く知ってもらいたい部分もある。参集にあまりこだわらず、オンラインで幅広く聞いてもらえる方法も考えていただければ。

委員) 企画の段階から当事者の方に入っていただくとニーズに対応することができ、参加者に届く研修となる。

委員) 課題的にも絶対取り組むべき内容だと思う。こういった研修でネットワークづくり等、勉強できる機会になり、有り難い。

(3)「現場から学び自身の未来を切り開く！実践型研修（仮）」について 担当者から説明

会長) 地域おこし協力隊はどのような活動をしているのか。

事務局) 地域おこし協力隊ネットワークは、岡山県内で活動している、地域おこし協力隊の取りまとめや支援をしている。地域おこし協力隊は、その地域のために何かをしたいと思われている方が、様々な地域資源や住民たちを結びつけたりしながら、地域作りをする。任期は3年間。

委員) これまで行っていた「まちプロ」と同じような事業か。

事務局) 「まちプロ」は地域づくりに特化したもの。新規事業は対話を軸にして自分と向き合う場をどう作っていくかというところに重きを置いた事業。

委員) 予算の関係があると思うが、10人ではなく、300人ぐらい参加できたら。どうしようかと悩んでいる学生も参加できるような事業になれば良いと思った。

委員) 受入先は、各地で4団体ということなのか。また、受入先はこれから見つけるのか。

事務局) 県内各地で4団体。受入先はこれから見つける。

委員) 受入側の力量も重要。受け入れ団体もしっかり探す必要がある。また、受入

側も参加者も学びになる機会になると思う。

委員) 昨年度までいた高校では、地域おこし協力隊の方が1週間に1回ぐらいコーディネーター役として入ってくれ、非常に親身になってやっていただいた経緯があった。大学生にも、地域課題や地域おこし協力隊と高校との関わりも学んでもらいたい。

3 その他

(1) キャラクター名発表
質疑なし

(2) その他

委員) 太陽の丘公園のすべり台が非常に熱くなっていた。何か注意喚起をした方が
良いのではないか。

事務局) すべり台の周りには、一応注意書きをしている。サイピア1階にクールシェアできる部屋がある。また、例年スロープとサイピアの入り口にミストシャワーを設置する。

4 閉会